平成１９年度 発生予察情報	特殊報第３号	平成１９年１０月４日 埼玉県病害虫防除所 （TEL:048-525-0747）

アワダチソウグンバイによるキク科作物の被害の発生について

本種については、今までに県内での採集情報はありましたが、キクやアスターなど農作物への被害が初めて確認されました。

特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生消長に特異的な現象が認められた場合に発表するものです。

１　病害虫名　アワダチソウグンバイ　*Corythucha marmorata*(Uhler)

２　発生経過

（１）平成１９年８月下旬、県西部地域の露地ギク、アスター及び宿根アスターにおいて、吸汁害による脱色斑点や排泄物による汚れが発生した。

（２）キクに寄生していたグンバイムシ類の成虫を採集し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、アワダチソウグンバイであることが判明した。

本種については、今までに県内での採集情報はあったが、このたび、農作物への被害が初めて確認された。

（３）本種は北米原産の侵入害虫である。我が国では平成１２年４月に兵庫県で最初に確認され，その後分布が拡大し、現在までに、大阪府、滋賀県、奈良県、三重県、京都府、徳島県、岐阜県、愛知県、香川県、岡山県、鳥取県、高知県、静岡県、東京都、広島県、群馬県、島根県、山梨県で確認されている。（9月27日現在）

３　形態及び発生生態

（１）形　態

成虫の体長は約３㎜ 。前翅の周縁部と一部の翅脈上に顕著な棘を列生し、前翅には多数の不定形の褐色斑があり、他のグンバイ類と容易に識別することができる。

幼虫は、褐色で紡錘形をしている。

（２）生　態

大阪府における露地ギクでの調査によると、本種は６～８月に発生が認められ、成虫の発生ピークは７月下旬と８月下旬、幼虫の発生ピークは８月上旬と下旬であった。成虫は単独で、幼虫は集団で加害している場合が多い。

本種の移動は、栽培植物間だけでなく、ほ場周辺のキク科雑草を介しても行われる。ほ場周辺にセイタカアワダチソウやブタクサなどがあると大発生し、近隣のほ場へ侵入する。

（３）加　害

本虫の被害は、吸汁により葉の表面にかすり状の脱色斑点が生じ、排泄物により茎葉に汚れが発生する。加害が進行すると葉が黄化しやがて枯死する。

本虫の寄生は、アスター、キク、宿根アスター、ヒマワリ、セイタカアワダチソウ、ブタクサなどキク科植物が中心であるが、ヒルガオ科（サツマイモ）、ナス科（ナス）でも確認されている。

４　防除対策

（１）圃場周辺のセイタカアワダチソウやブタクサなどのキク科雑草は発生源となるので早期に除草する

（２）薬剤による防除としてキクにはコテツフロアブル2000倍（発生初期、２回以内、150～300L/10a）を発生時期に散布する。

キクの葉の被害症状

吸汁痕と排泄物

アワダチソウグンバイ成虫

アワダチソウグンバイ幼虫

＜農薬使用上の注意事項＞

1　農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。

2　剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。

3　農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。

4　農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。

5　スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。

6　周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。